

ちょうふ環境にゆ〜す

未来へつなぐ調布の環境

●発行：調布市環境部環境政策課

●連絡先：電話：042-481-7086（直通） F A X：042-481-7550

メールアドレス：kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp

※市ホームページでも、環境情報を提供しています（トップページ左下からリンクしています）。

2010年3月
第3・4号
合併号

刊行物登録番号
2009-241

調布市はチャレンジ25キャンペーンに参加しています ～皆さんも参加しませんか～

政府では、あらゆる政策を総動員して地球温暖化防止対策を推進するための国民運動として、6つのチャレンジによる「チャレンジ25キャンペーン」の展開をスタートしました。調布市でも、今年1月28日に、「チームマイナス6%」から移行し「チャレンジ25キャンペーン」に参加しています。みなさんも、6つのチャレンジをしてみませんか。

チャレンジ
25

6つのチャレンジで減らしましょう

①「エコな生活スタイル」を選択する「チャレンジ」で、温暖化をストップしましょう

例：クールビズやウォームビズの実践、マイバッグやマイボトルの使用、公共交通機関や自転車の利用など

②「省エネ製品」を選択する「チャレンジ」で、温暖化をストップしましょう

例：電球の買い換え（LED電球など）、省エネ家電への買い替え、エコカー購入など

③「自然エネルギー」を選択する「チャレンジ」で、温暖化をストップしましょう

例：「太陽光発電」の導入、風力発電の設備を地域住民で購入、「グリーン電力」使用企業の応援など

④「ビルや住宅のエコ化」を選択する「チャレンジ」で、温暖化をストップしましょう

例：エコリフォーム、エコビル化など

⑤「CO₂削減につながる取組や商品」を応援する「チャレンジ」で、温暖化をストップしましょう

例：商品などにCO₂排出量を明示する「カーボン・フットプリント」商品を選択、排出量に見合う温室効果ガスの削減活動への投資等により排出される温室効果ガスを埋め合わせる「カーボン・オフセット」商品の選択。地元食材を使って地産地消など

⑥「地域で取組む温暖化防止活動」に参加する「チャレンジ」で、温暖化をストップしましょう

例：地域の環境イベントに参加、カーシェアリングやレンタサイクルの利用、パーク&ライドで公共交通機関を利用

市役所本庁舎にLEDランプ導入

最近よく耳にするLED電球。これまでの電球と同じ明るさで、かつ省エネ、長寿命といったいいことばかりの電球です。さらに、現在使用している電球ソケットにそのまま差し込めるので、いま急速に普及が進んでいます。

LEDとはLight Emitting Diode（発光ダイオード）の略語でエル・イー・ディーと読みます。普及している白熱灯や蛍光灯に続く照明のニューフェイスとして、各方面から注目が集まっています。特筆すべき点としては、まずは低消費電力で、光熱費の節約とCO₂の削減が図れます。もうひとつの特筆すべき点としては、長寿命であるという点です。LEDの寿命は電球型蛍光灯の約7倍といわれています。この長寿命により交換の手間やコストが軽減されます。電球としての単価は上がりますが、低消費電力で長期間使用可能という点を考えると、エコな電球といえます。

調布市の庁舎でも、このエコなLED電球を2月に導入しました。導入した場所は、市役所4階や5階などにある電球型蛍光灯部分、総数125個分です。このことにより、消費電力・電気量・CO₂排出量の削減を図っていきます。

皆さんも、ご家庭や事業者などで導入を考えてみてはいかがでしょうか。

※なお、今回の交換により外した電球型蛍光灯は、他の公共施設の交換用ランプとして再利用を図ります。



※市では、調布市地球温暖化対策実行計画 区域施策編を策定しました。内容は次号以降でお知らせします。

水と緑豊かなまちを目指して

調布市は、都心に近いながら豊かな緑の残る、ゆったりとした雰囲気を持つまちです。崖線から田園へとつながる一帯の景色は、失われゆく里山景観、武蔵野の風景を思い起こさせる貴重な資源です。特に市の中央部に位置する深大寺・佐須地区では、湧水を集めて流れる用水に沿って田畑が広がり、農の営みと一体となって管理されてきた屋敷林や雑木林も残されています。

この、景観をおりなす深大寺南町で田んぼ作業を営んでいる農家の方の話をお聞きしたところ、特に昔と比べて湧き水の量が減っているということに気がされていました。地面のアスファルト化や下水網の整備といった、時代とともに進んだ都市化の影響など、様々な要因が考えられますが、いずれにしても、深大寺・佐須地域の農業を支える湧き水とその水が流れていく用水路を大事にしていきたいものです。

この、豊富だった湧き水を復活させるため、市では市民の皆さんに雨水浸透ますの設置のお願いをしています。



雨水浸透ますうすい しんとうの設置にご協力ください

雨水浸透ますとは屋根にふった雨を、雨どいを通して地下に浸透させるますのことです。雨水浸透ますを設置することにより、次のような効果が期待されます。

【雨水浸透ますの効果】

- ・地下水や湧き水を豊かにします。
- ・地熱を下げて自然豊かな地球に戻します。
- ・大雨による河川の急激な増水をやわらげます。
- ・地盤沈下を防止します。

対象地域／調布市内

設置対象／既存の一般住宅で屋根面積 50㎡以上で設置できます。

設置場所／雨どいの近くで、実際には 1㎡程度の広さがある場所。(小型サイズの浸透ますも設置できます)

設置費／無料(市の予算で設置します)

施工／調布管工土木事業協同組合指定工事店
※ご協力いただける方は、環境政策課へご連絡ください。

豊かな湧き水づくりに、皆さんのご協力をお願いします。



身近な調布の自然を教えてください ～写真募集～

水と緑が豊かな我がまち調布には、まだまだ自然の風景が多く残されています。皆さんも、散歩などで街中に残るふとした身近な自然の風景を発見したら、写真に収めて環境政策課まで送信してください。送っていただいた写真は、次号以降または市ホームページで紹介させていただきます。

内容／街中で発見した自然(河原でくつろぐ野鳥、あまり見かけない野草など、私有地以外で発見した身近な自然)

応募／写真の題名、撮影場所、撮影日時、100字程度の写真の説明、撮影者の住所・氏名・年齢・電話番号をA4の用紙に明記して〒182-8511市役所8階環境政策課へ郵送またはご持参ください

※デジカメ写真で、メール送信する場合は、ファイルサイズを500KB以下に圧縮したうえで、Eメールに写真を添付

し、メール題名を「調布の身近な自然」とし、メール本文には写真のタイトル、撮影場所、撮影日時、100字程度の写真の説明、撮影者の住所・氏名・年齢・電話番号を明記して環境政策課 kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp へ送信してください

その他／すべての写真を紹介できない場合もありますのでご了承ください

調布こどもエコクラブの活動

第5回 簡易炭焼きとスープづくり体験

11月21日に、今年度第5回目のイベント「簡易炭焼きとスープづくり体験」が開催され、小学1～6年生の会員や保護者ら22人とサポーター5人が、深大寺自然広場にあるカニ山キャンプ場で、サポーター指導のもと炭焼きや季節の野菜を使ったスープ作りを体験しました。

松ぼっくりなど、炭焼きにしたい材料を缶に入れ、針金で縛りさらに穴を開けて火にくべました。また炭焼きを待つ間は、スープ材料の皮むきや切り分けなどを行いました。このほかにも、ドングリや竹などを使った工作も行いました。



第6回 川の石調べとストーンペインティング

平成22年1月23日、今年度最終となるイベント「川の石調べとストーンペインティング」が多摩川河川敷で行われ、会員や保護者ら27人とサポーター8人が参加しました。当日は晴天の中、自然学習ボランティア指導のもと、小学4年～6年生は川の石調べを、小学1～3年生はストーンペインティングを行いました。

石調べでは、多摩川の河原にある石を広い、その特徴と成り立ちを学びました。ストーンペインティングでは、様々な形・大きさの石を集め、それぞれ絵を描きました。石の形に合わせて描いた食べ物や、自分が好きな動物の絵など、普段なかなか使わないキャンパスに、思い思いの作品が出来上がりました。



調布水辺の楽校の活動

多摩川クリーン作戦&あったか芋煮会

11月3日、45人の参加者のもと、多摩川のごみ拾いを行いました。布田小学校に集合した参加者は、鳥や植物を観察しながら、土手に出て清掃をしながら学校に戻りました。その後は布田小のお父さんたちの協力により芋煮を行い、子どもも大人もおいしくいただきました。



チャレンジ バードウォッチング

2月11日、多摩川河川敷で野鳥観察を行い、134人の参加者が、水辺にやってくる野鳥の観察を行いました。保護者の参加も多く、子どもと一緒に熱心に観察をする姿が見られました。

観察できた鳥類は、カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、コガモ、カルガモ、マガモ、ヒドリガモ、オカヨシガモ、オオバン、イソシギ、セグロカモメ、カワセミ、ハクセキレイなど、27種でした。



環境モニターの活動

9月観察会 多摩川植物観察

9月5日に行われた観察会では、多摩川の河川敷をフィールドにした植物観察を行いました。

実際の植物を見ながら、講師から様々な植物の見分け方などの解説がありました。

また、特定外来種や帰化植物の増加など、身近な植物を取り巻く環境の変化などのお話もききました。



10月観察会 アレチウリ調査

10月10日に行われた観察会では、特定外来種であるアレチウリの調査を行いました。

調査は狛江市との市境から府中市との市境まで、調布市の多摩川河川敷のほぼ全域にわたって行われ、講師の指導を受けながら、検土杖（土の中の種等を調べる器具）やGPS機器を使った本格的な調査手法を体験しました。



11月観察会 カニ山での植物観察

11月9日に行われた第4回の観察会では、深大寺自然広場周辺、通称カニ山での植物観察を行いました。

キャンプ場としても使われるカニ山では、講師から踏みつけによる土壌の硬さの違いが植物の発生に与える影響などの解説がありました。

また、ペンを使った簡易的な樹高の計測方法やよく似た葉の見分け方などについても学び、参加者は実際に樹高を測ったり、実際の葉を手に取りながらの体験活動を行いました。



2月観察会 野鳥観察

平成22年2月6日に行われた観察会では、冬は観察できる植物が少ないこと、落葉により見通しがよくなり、鳥の観察がしやすいことから、鳥に詳しいサポーターを講師に、多摩川河川敷で野鳥観察を行いました。

鳥の見分け方を解説したパンフレットを使った講師の解説を受けながら、望遠鏡や双眼鏡などを使って野鳥の観察を行いました。



調布そぞろ歩き

平成22年3月6日、一般の参加者を募って調布そぞろ歩きを開催しました。

調布そぞろ歩きは、環境モニターのサポーターの企画を基に、講師の解説を聞きながら調布の様々な場所を巡るガイドツアーで、今回は深大寺北町周辺で古くから住まれているお宅に残る古木、巨木の見学が中心の活動となりました。

活動では調布市周辺では珍しいコウヤマキの大木や、明治期に入ってきたタイサンボク、市の指定樹木である禅寺丸柿などとともに、普段なかなか見ることができない古い農家の様子や、そこで生活されている方々からのかつての調布での生活、風習などのお話を、参加者は興味深く聞き入りながら、深大寺北町を満喫していました。



平成21年度の雑木林塾活動

第3回 雑木林を知る－雑木林の植物を調べる

11月22日の第3回は、あいにくのどんよりとした天気の中、入間町の樹林地で雑木林の生態系などについて学習しました。仙川ふれあいの家で、植物の生態についての講義を受けたあと、入間町1丁目緑地で実際に植物の調査を行いました。



第4回 市外における活動事例の視察

12月13日の第4回では、多摩市にある一本杉公園を訪ね、市外における雑木林保全活動事例を視察しました。炭焼きの現場や、管理された他市の雑木林を見学し、これまでとは一味違った視点で学習をしました。



第5回 雑木林の生態系と現状について

雨が明けて、1月24日に実施した第5回では、雑木林の生態系をテーマに学習しました。佐須ふれあいの家で行われた午前の座学では、雑木林の生きものについての知識を習得し、午後には、かに山で生きものの観察を行いました。普段何となく見ていた木々や、植物をじっくり観察しながら、生態についての理解を深めました。



第6回 雑木林のふり返りと各人の取組み

第6回は最終回として、2月28日(日)に、文化会館たづくりで開催し、これまでの活動を振り返りながら、参加した皆さんが今後、どのように取り組んでいけるかを考えるためにワークショップを行いました。



環境保全団体交流イベントを開催しました

「私からはじめるエコライフ PART II」
～ひろがる・つなげる、エコ活動～

2月28日に、市民・企業など各団体の枠を超え、全市の環境保全団体が連携することを目的に、関係団体間の交流を深める「交流イベント」を、文化会館たづくり大会議場で開催しました。

当日は、NPO 環境パートナーシップ支援センター理事長・小野紀之氏の講演のあと、ワークショップを行い、28団体57人の参加者がお互いの動きを知り、つながるためのアイデアを共有しました。





市の環境美化への取り組み

地域の美化活動を支援しています

団体で実施する、自主的な市内の公共の場所の美化活動に対し、ごみ袋の提供、清掃用具の貸出しなどを行っています。美化活動をしてみよう、と考えている団体の代表の方は環境政策課へお申し込みください。自分たちのまちを、自分たちの手できれいにしていきたいと思います。

「美化推進重点地区」を指定しています

特に美化を推進する必要がある、かつ、地域の方々の美化意識が高く、積極的な美化活動を進めている地区を「美化推進重点地区」に指定しています。

条例で「美化推進重点地区内でのポイ捨て行為に2万円以下の罰金」を規定しています。

「美化推進重点地区」では

各地区とも地元の自治会や商店会、事業者のみなさんにより、定期的な清掃活動や花壇の整備などが実施され、地域の美化が保たれています。

地区	活動日
京王多摩川駅周辺地区	毎月第3月曜日
仙川駅周辺地区	毎月第3木曜日
国領駅周辺地区	毎月第3月曜日
菊野台交差点周辺地区	毎月1回程度
多摩川クリーン作戦	年2回（4月・11月）
野川クリーン作戦	年1回（12月）



京王多摩川駅周辺地区



仙川駅周辺地区



菊野台交差点周辺地区



国領駅周辺地区

市内の小中学校のみみずリサイクルBOX

ボックス

市内の小中学校で、たくさんのミミズが飼育されているのをご存知ですか。このミミズが飼育されている箱は「みみずリサイクルBOX」といい、給食調理において出る野菜くずをエサとしています。そしてエサを摂取したミミズの糞が、栄養たっぷりの土に変えてくれます。なお、このみみずリサイクルBOXは、緑ヶ丘小学校校長先生の知人の紹介により、子どもたちに自然が循環している、ということを知ってもらうために平成20年春ごろ設置されました。なんと、このBOXの中には10万匹のみみずがいるそうです！

BOXを設置している緑ヶ丘小学校では、毎週火曜日に、飼育をする5年生の「生きもの係」が、給食調理室で調理後の野菜くずをビニール袋に詰めてもらい、みみずリサイクルBOXのミミズに給餌しています。



また第八中学校でも、平成21年の春過ぎくらいから、みみずリサイクルBOXが、栄養いっぱい土を作り出しています。こちらは、園芸ボランティア部の生徒が給餌しています。第八中学校の給食は、緑ヶ丘小学校で作られていますので、各小中学校のミミズは、「同じ釜の飯を食べている」わけです。



なお、これらのみみずリサイクルBOXでできた土は、学校の花壇や学校菜園などで使用する肥料として利用されます。

この取り組みは、このほかの市内の学校数校でも実施しています。

このニュース誌の感想やご意見がありましたら、お気軽に環境政策課へお寄せください。

